

平成29年度 学力向上推進プラン 5年

		学年の目標	2学期末の児童の様子	3学期末の児童の様子
基礎・基本	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをもち、伝えられる児童を目指します。そのために、自分の考えをノートに記録する時間を確保してから伝える時間をとったり、小グループでの話し合い活動を行ったりします。</li> <li>新出漢字の定着(まとめの50問テスト90点以上を8割)を目指します。そのために小テストを単元ごとに行い、自分に合った練習方法で100点を取れるように繰り返し取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをノートに記録することができます。また、少人数だと自分の考えを伝えることができます。</li> <li>単元ごとの漢字は、小テストで習得することができています。しかしまとめのテストでは、1回目で90点以上獲得できたのは、6割程度です。個々にあった練習方法の提案と反復練習を行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをノートに記録することができます。また、少人数だと自分の考えを伝えることができます。大人数の前で、理由や根拠を添えて話せるようになることが課題です。</li> <li>単元ごとの漢字は、小テストで習得することができています。しかし学年のまとめのテストでは、1回目で90点以上獲得できたのは、3割程度です。漢字の意味を理解して、多様な使い方を習得することが課題です。</li> </ul>
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>四則計算がスムーズにできるようになります。そのために、家庭学習週間や朝学習の時間に東京ベーシックドリルのプリントを使って習熟を図ります。診断テストでは9割の点数を取る児童8割を目指します。できていない児童には、放課後補習教室や個別指導を通して指導します。</li> <li>繰り返し計算ドリルの問題に全員が取り組み、全てをやり遂げ、間違えた問題は理解するまで繰り返し、練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシックドリルに取り組みことで、8割程度の児童が四則計算をスムーズに行うことができます。四則計算につまずく児童が1割程度、苦手な分野がある児童が1割程度いるので個別に指導を行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシックドリルや計算ドリルに繰り返し取り組みすることで、9割程度の児童が四則計算をスムーズに行うことができます。つまずいている児童には、授業の復習や反復練習の大切さを伝え、繰り返し取り組みことで定着できるよう指導しています。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローマ字タイピングがスムーズに行えるようになります。そのために総合的な学習の時間に、タイピングの練習にゲーム感覚で取り組み楽しく習得できるようにします。</li> <li>学校図書館を活用し、読書に親しむ児童を目指します。そのために、日頃から読んだ本を読書貯金箱に記録したり、学習内容に沿った本を見つけて調べたりする活動を行います。</li> <li>国語の単元ごとに熟語を辞典を使って調べ、使い方や意味などの語彙力を伸ばすとともに、日頃から調べる習慣を身に付けさせます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイピング練習に意欲的に取り組み、スムーズに行えるよう練習に励んでいます。スムーズにタイピングできる児童は2割程度なので引き続き、授業でパソコンを活用したり、タイピング練習を行ったりしていきます。</li> <li>日頃から読書に親しんでいます。学習内容に沿った本を見つけて読むことはできていますが、調べる活動が好きではないと答えた児童が3割程度いましたので、図書館の活用方法を検討していきます。</li> <li>単元の熟語を辞書を使って調べています。引き続き、自分で調べる習慣が身に付くよう指導します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8割の児童は、ローマ字タイピングをスムーズに行うことができます。引き続き、パソコンを活用する授業を取り入れたり、タイピング練習の時間を確保したりすることで習得できるようにします。</li> <li>学年目標の1000ページ読書を達成した児童は、3割程度です。朝・昼読書の時間など集中して読書を楽しんでいます。家庭でも読書の時間をもつよう指導していきます。調べる活動では、パソコンを活用する児童が多いので、図書館の活用方法を再度検討していきます。</li> <li>漢字学習や、調べ学習で分からない言葉があった時に調べる児童が増えました。学習中は、常に辞書を手元に置き、すぐ調べることができるようにしていきます。</li> </ul>
思考力・判断力・表現力	思考力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら課題を見出し、見通しをもって解決することのできる児童を目指します。そのために、授業の始めにめあてを明確にし、自分の考えを言葉や文章で表現できるようにします。また、授業の最後には、まとめ、感想を書いて振り返ることで、自分の達成度を確認したり、次時の課題をもったりする時間を確保します。</li> <li>学習の過程や、自分や友達の思考がわかりやすく整理されたノートを記録できる児童を目指します。そのために、教師も整理された板書を心掛けたり、見やすく書くポイントを伝えたりします。また、分かりやすく整理されたノートを掲示し参考にできるようにします。</li> <li>自分の考えをもち、友達の意見を聞いて、考えを深めることができるようになります。そのために自分の考えをもち話し合いを行うようにします。また、友達の意見を聞いて考えが変わったり、友達の意見に付け加えて話している児童を称賛し、児童がお互いに学び合う力が身に付くようになります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてをもち、学習に取り組み授業の最後に振り返りながら、自分の達成度を確認することができます。さらに新たな課題がもてるような授業の工夫を行っています。</li> <li>8割の児童が見やすく整理された内容をノートに記録することができます。残り2割の児童が内容を整理して記録できるよう引き続き個々に指導を行っています。</li> <li>友達の意見を聞いて、考えが深まったと実感できている児童が増えてきています。引き続き、互いに学び合えるよう話し方聞き方の指導を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてをもち、学習に取り組み授業の最後に振り返りながら、自分の達成度を確認することができます。新たにもった課題を次の課題として授業で解決したり、解決できない課題は、自主学習などで解決したりすることが増えてきました。</li> <li>9割の児童が見やすく整理された内容をノートに記録することができます。残り1割の児童が内容を整理して記録できるよう引き続き個々に指導を行っています。</li> <li>8割の児童が自分の考えをもち話し合いに参加し、伝えることができます。今後は、友達の意見を聞いて考えを深めるなど学び合う力が付くように指導していきます。</li> </ul>
	学習習慣	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習時間を毎日75分間(15分×5年生)取り組みことを目指します。そのために宿題の提出を確認します。また、自主学習を励行し、自らの課題を考えて取り組むよう声をかけます。模範になる児童の取り組みを紹介したり、ノートを掲示したりして参考にできるようにします。</li> <li>次時の授業の準備の習慣化を目指します。できている児童をほめたり、グループで声をかけあったりさせることで100%の定着を図ります。</li> <li>話の要点をとらえたり、自分の考えと比較したりしながら相手の話を聞くことができる児童を目指します。そのために、朝会後に聞き取り小テストを行ったり、ハンドサインで自分の考えを常に伝えたりできるようにします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題の提出率は、ほぼ100%です。家庭学習期間中も75分の学習に取り組めていました。自主学習も自らの課題を考えて取り組むことができます。さらに自主学習の内容が学習の習得につながるよう、個々に声を掛けていきます。</li> <li>次時の授業の準備の定着は、低いです。引き続き指導を重ねていきます。</li> <li>8割の児童は、正確に内容を聞きとることができます。さらに聞いたことに対して、自分の考えを述べられるよう指導を重ねていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題の提出率は、ほぼ100%です。家庭学習期間中も75分以上の学習に取り組めていました。自主学習も自らの課題を考えて取り組むことができます。</li> <li>次時の授業の準備の定着は、5割程度です。引き続き指導を重ねていきます。</li> <li>8割の児童は、正確に内容を聞きとることができます。さらに聞いたことに対して、自分の考えをもち述べられるようになることが目標です。</li> </ul>